

# 親子の接点としてのバラエティー番組

～小学2・3年生のテレビ視聴～

メディア研究部 中井俊朗 / 堀川伸一

NHK放送文化研究所の“子どもに良い放送”プロジェクトでは、川崎市の子どもたちのメディア接触を0歳のときから継続して追跡調査しているが、テレビ視聴について、8歳になってバラエティー番組の視聴傾向が定着してきたことが分かった。しかもバラエティー番組は子どもだけで見のではなく、親と一緒に見ることが明瞭になった。親と一緒にバラエティー番組を見る傾向は、男子より女子の方が顕著である。一方、子どもが直接回答したアンケートでは「家族で見られて楽しい」という理由でバラエティー番組がよく見られる結果になり、バラエティー番組と家族視聴との関連を裏付けている。母親に尋ねたアンケートでは、4人に3人は「子どもと一緒にテレビを見るのは楽しい」と答えており、テレビを媒介にした親子の関係がうかがわれる。さらに、調査では母親に子どもにとってプラスになった番組とその理由を尋ねた。回答は多岐にわたるものであったが、子どもの物事への興味や関心を育て、心の育成に役立つ、という理由が多くあった。

## はじめに

～“子どもに良い放送”プロジェクト・  
第9回調査について～

2001年、NHK放送文化研究所は、映像メディアとの接触が子どもの発達にどんな影響を与えるのかを解明し、子どもにとって有益なメディア環境を考える目的で、“子どもに良い放送”プロジェクトを立ち上げた。

プロジェクトは、小児医学、教育学、発達心理学、社会学など、外部の専門家との共同研究体制で<sup>1)</sup>、2002年2月から7月までに川崎市<sup>2)</sup>に生まれた子どもたち1,200人余りを、0歳から12年間にわたって追跡調査するパネル調査をベースに進められている。

2003年1月にスタートした調査は年に1回実施し、2012年1月実施の調査で10回目を迎え

た。本稿は、2011年1月に実施した第9回調査の結果を中心に報告する。

第9回調査の概要は以下の通りである。調査時点で、調査に協力している子どもたちは8歳(小学2・3年生)であった。

調査期間 2011年1月12日(水)～18日(火)

調査方法 郵送調査

調査内容 ①視聴日誌調査(1週間の映像メディア接触の記録)、②保護者2人それぞれに対する質問紙調査、③子ども本人に対する質問紙調査

有効票 ①視聴日誌調査844票、②保護者1用質問紙調査(回答者は主に母親)850票、③保護者2用質問紙調査(回答者は主に父親)787票、④子ども用質問紙調査849票

表1 “子どもに良い放送”プロジェクト 調査概要 第1～9回調査

調査回（年齢）	調査実施時期	調査数	有効回答数		
			視聴日誌	質問紙調査 保護者1用/2用	子ども本人 質問紙調査
第1回（0歳）	2003年1月 14日～20日	1,368	1,160	1,224 / 1,129	-
第2回（1歳）	2004年1月 13日～19日	1,250	1,070	1,147 / 1,078	-
第3回（2歳）	2005年1月 13日～19日	1,244	1,060	1,105 / 1,041	-
第4回（3歳）	2006年3月 9日～15日	1,047	907	941 / 895	-
第5回（4歳）	2007年1月 11日～17日	965	895	907 / 866	-
第6回（5歳）	2008年1月 15日～21日	956	886	916 / 870	-
第7回（6歳）	2009年1月 14日～20日	941	790	897 / 839	-
第8回（7歳）	2010年1月 13日～19日	905	869	874 / 813	-
第9回（8歳）	2011年1月 12日～18日	885	844	850 / 787	849

なお、調査に協力する川崎市の子どもの人数であるが、表1の通り、第1回調査時に保護者から調査への同意を得られたのが1,368件、有効票は最も多かった保護者1用質問紙調査で1,224票であったが、第9回調査時点では、同意が得られた保護者件数が885件（第1回調査比64.7%）、有効票数が保護者1用質問紙調査で850票（第1回調査比69.4%）となっている<sup>3)</sup>。

## 1. 8歳でバラエティー番組をよく見るようになる

調査に協力している子どもたちがよく見る番組ジャンルは年齢とともに少しずつ変化してきている。

乳児期（0～2歳）では幼児向け番組が最もよく見られ、幼児期（3～5歳）にはアニメ番組が幼児向け番組と並んでよく見られるように

なる。5歳以降は、アニメ番組が最もよく見られる一方で、幼児向け番組を見る子どもが徐々に減り始める。同時に、視聴番組ジャンルの多様化が始まり、中でもクイズやゲームまで含めた広い意味でのバラエティー番組を見る子どもが次第に増えてきている。

子どもが8歳になった第9回調査では、バラエティー番組の視聴が定着したように思われる。そして、バラエティー番組は親と一緒に見る傾向が示された。

本稿では、8歳になった子どもたちのテレビ視聴を、番組ジャンルの観点から分析しながら、テレビ視聴をめぐる親子関係に光を当てたい。

ところで、本稿で議論の中心となる「バラエティー番組」は演出的に最も融通無碍なジャンルである。現在、放送されている番組の多くがバラエティー的要素を持っていて、「広い意味で」という修飾をつければ、実に多くの番組が「バラエティー番組」になってしまう。「雑学

ヤクイズや古いであれ、健康ものや紀行ものやスポーツものであれ、情報番組や歌番組や時事討論番組であれ、そこにタレントや芸人が出てくれば、現在では、もうそれだけで立派にバラエティーである」(『最近のテレビ・バラエティー番組に関する意見』2009年/放送倫理・番組向上機構)と言われる通り、今やバラエティー番組は「さまざまな演出と素材からなる」という、ジャンル定義の本来の意味を失っている。本稿は番組ジャンルの定義を目的とするものではないので、「バラエティー番組」については便宜的に扱いながら、テレビ視聴をめぐる親子関係を中心に論じていきたい。

## 視聴日誌調査に見る視聴率上位番組

### ～6歳から8歳まで～

“子どもに良い放送”プロジェクトの視聴日誌調査は、調査期間の1週間、子どもが映像メディア(テレビ・ビデオ・ゲーム)にどのように接したか、母親が15分単位で記録するものである。

テレビについてはチャンネルごとに線を引いて記入し、あわせて「ついているだけ」「ながら視聴」「専念視聴」のいずれかを記入する欄が設けてある。

「ついているだけ」は子どもがいる部屋でテレビがオンの状態になっていることを意味している。また、「ながら視聴」とは、室内遊びや食事など、何か別のことをしながらテレビを見ている状態を、「専念視聴」とは文字通り、他のことに気を取られずに専念して見ている状態を示す。

そして、「ながら視聴」と「専念視聴」を合わせて「視聴」、さらに「視聴」に「ついているだけ」を加えたものを「接触」と定義している。

表2 視聴率上位番組 6歳/7歳/8歳比較

#### 2-1 (視聴日誌・6歳)

順位	局	曜日	開始時刻	放送分数	番組名	視聴率(%)
1	テレ朝	金	19:00	30	ドラえもん	39
2	テレ東	木	19:00	30	ポケットモンスター DP	37
3	フジ	日	18:30	30	サザエさん	36
4	フジ	日	18:00	30	ちびまる子ちゃん	33
4	テレ朝	金	19:30	24	クレヨンしんちゃん	33
6	日テレ	月	19:00	60	アニメ☆7	23
7	テレ朝	日	08:30	30	Yes!プリキュア5 Go Go!	20
8	テレ東	水	19:26	29	ステイッチ!	16
9	テレ朝	日	08:00	30	仮面ライダーキバ	15
9	テレ東	木	19:30	27	NARUTO 疾風伝	15
9	フジ	水	19:57	57	はねるのトびら	15
12	フジ	日	09:00	30	ゲゲゲの鬼太郎	14
12	テレ朝	日	07:30	30	炎神戦隊ゴーオンジャー	14
12	N教育	水	17:30	10	アニメぜんまいざむらい	14
12	N教育	水	17:40	10	味楽る!ミミカ	14
12	N教育	水	17:50	10	クインテット	14
12	フジ	水	19:00	57	クイズ!ヘキサゴンII	14
18	テレ東	日	07:30	60	ポケモン☆サンデー	13
18	N教育	水	08:00	10	にほんごであそぼ	13
18	N教育	木	08:15	15	いないいないばあっ!	13

□はバラエティー番組

#### 2-2 (視聴日誌・7歳)

順位	局	曜日	開始時刻	放送分数	番組名	視聴率(%)
1	テレ朝	金	19:00	30	ドラえもん	40
2	テレ東	木	19:00	30	ポケットモンスター DP	37
3	フジ	日	18:30	30	サザエさん	35
4	テレ朝	金	19:30	24	クレヨンしんちゃん	33
5	フジ	日	18:00	30	ちびまる子ちゃん	31
6	テレ東	水	19:26	29	イナズマイレブン	24
6	テレ東	月	19:00	30	たまごっち!	24
8	テレ東	水	19:00	26	毎日かあさん	20
9	テレ朝	火	19:00	27	ステイッチ! ～いたずらエイリアンの大冒険～	18
9	日テレ	土	19:00	56	天才!志村どうぶつ園	18
11	テレ朝	火	19:30	24	怪談レストラン	16
11	テレ朝	日	08:30	30	フレッシュプリキュア!	16
13	テレ東	木	19:30	28	NARUTO 疾風伝	15
13	テレ東	日	07:30	60	ポケモン☆サンデー	15
13	テレ東	木	18:30	30	ピラメキーン	15
16	テレ朝	日	08:00	30	仮面ライダーW(ダブル)	13
17	N教育	水	07:15	10	アニメぜんまいざむらい	12
17	テレ東	日	08:30	30	メタルファイト ベイブレード	12
19	テレ東	水	07:05	25	おはスタ2部	11
19	テレ東	月	19:30	30	FAIRY TAIL	11

□はバラエティー番組

2-3 (視聴日誌・8歳)

順位	局	曜日	開始時刻	放送分数	番組名	視聴率 (%)
1	テレ朝	金	19:00	30	ドラえもん	36
2	フジ	日	18:30	30	サザエさん	35
3	テレ朝	金	19:30	24	クレヨンしんちゃん	32
4	テレ東	木	19:00	30	ポケットモンスター ベストウイッシュ	31
5	フジ	日	18:00	30	ちびまる子ちゃん	30
6	テレ東	月	19:00	30	たまごっち!	22
7	フジ	日	19:00	114	逃走中 2011 ~ 卑弥呼伝説~	21
7	テレ東	水	19:26	29	イナズマイレブン	21
9	日テレ	土	19:00	56	天才!志村どうぶつ園	20
10	テレ東	水	19:00	26	毎日かあさん	18
11	テレ朝	火	19:00	27	ステイッチ! ~ずっと最高のトモダチ~	17
12	テレ東	木	19:30	28	NARUTO 疾風伝	14
12	テレ東	日	07:30	60	ポケモンスマッシュ!	14
14	日テレ	土	19:56	58	世界一受けたい授業	12
14	テレ東	月	19:30	30	FAIRY TAIL	12
14	日テレ	水	19:00	56	密室謎解きバラエティー 脱出ゲーム DERO!	12
14	日テレ	土	18:00	30	名探偵コナン	12
18	テレ東	日	08:30	30	メタルファイト ベイブレード 爆	11
18	日テレ	日	19:00	114	ザ!鉄腕!DASH!! 犬だらけワンワン SP	11
18	テレ朝	火	19:27	27	デジモンクロスウォーズ	11

□はバラエティー番組

視聴日誌調査では、さらにテレビ接触・視聴について、子ども(たち)だけで見ているか、大人と一緒に見ているかについても記入してもらっている。

毎年、視聴日誌調査から視聴率を算出しているが、6歳以降の3年間の推移を見てみよう(表2)。

バラエティーに分類される番組は、6歳時点では視聴率上位番組20本のうちわずかに2本、7歳時点では1本であったが、8歳になって5本に増えた。

なお、出演者がチームに分かれてクイズやゲーム遊びで得点を競い合う番組は、本稿ではバラエティー番組として扱う。また、7歳時点で視聴率上位番組に入っている「ピラメキーン」「おはスタ2部」は子ども向けバラエティー

番組であり、他のバラエティーとは異質な番組である。

6歳時点ではまだ、NHK教育テレビの幼児向け教育番組が上位20番組のうち5本を占めていることに注意したい。この年、調査に協力する子どもたちの3分の1が小学1年生、残り3分の2が小学校入学直前であった。つまり、表2は、幼児向け教育番組を見る子が小学校入学前後に減少していくことを示している。8歳時点では、NHK教育テレビの番組は視聴率上位番組20番組から姿を消すのである。

## 2. 子どもだけで見る番組／ 家族一緒に見る番組

8歳時点でよく見られるようになるバラエティー番組だが、その見られ方に特徴がある。多くは親と一緒に見ているのである。

「子どもだけ」視聴と「大人と一緒に」視聴とに分けて、子どもたちの番組視聴率を視聴日誌から算出し、表3にまとめた。「子どもだけ」視聴と「大人と一緒に」視聴それぞれの視聴率上位番組である。違いは一目瞭然である。

「子どもだけ」視聴では、視聴率上位番組は「ピラメキーン」「おはスタ2部」を除いてすべてアニメ番組である。逆に、「大人と一緒に」視聴では、アニメ番組は11番組にとどまり、あとは大人も一緒に見られる家族向けのバラエティー番組が7本で、音楽番組(「ミュージックステーションSP」)とドラマ番組(「デカワンコ」)がそれぞれ1本である。

子どもたちがバラエティー番組を見るのは大人(=親)と一緒になのである。放送時間帯も19時~21時までの、家族だんらんの時間帯であり、こうしたバラエティー番組は家族向けバラ

表3 子どもだけ視聴／大人と一緒に視聴  
視聴率上位番組：視聴日誌・8歳

表4 視聴率上位番組・男女比較：  
視聴日誌調査・8歳

3-1 子どもだけ視聴

順位	局	曜日	開始時刻	放送分数	番組名	視聴率 (%)
1	テレ朝	金	19:00	30	ドラえもん	18
1	テレ東	木	19:00	30	ポケットモンスター ベストウイッシュ	18
3	テレ朝	金	19:30	24	クレヨンしんちゃん	16
4	テレ東	水	19:26	29	イナズマイレブン	13
4	フジ	日	18:30	30	サザエさん	13
6	テレ東	月	19:00	30	たまごっち!	12
7	フジ	日	18:00	30	ちびまる子ちゃん	11
8	テレ東	日	07:30	60	ポケモンスマッシュ!	10
9	テレ東	水	19:00	26	毎日かあさん	9
9	テレ朝	火	19:00	27	ステイッチ!〜ずっと最高のトモダチ〜	9
11	テレ東	木	19:30	28	NARUTO 疾風伝	8
11	テレ東	日	08:30	30	メタルファイト ベイブレード 爆	8
11	テレ東	金	18:30	30	ピラメキーン	8
14	テレ東	土	09:00	30	極上!!めっちゃモテ委員長 セカンドコレクション	7
14	テレ東	月	19:30	30	FAIRY TAIL	7
16	N教育	木	07:15	10	アニメはなかつぱ	6
16	テレ朝	日	08:30	30	ハートキャッチプリキュア!	6
16	テレ東	土	09:30	30	ジュエルペット ていんくる☆	6
16	テレ東	火	07:05	25	おはスタ2部	6
16	テレ朝	火	19:27	27	デジモンクロスウォーズ	6

3-2 大人と一緒に視聴

順位	局	曜日	開始時刻	放送分数	番組名	視聴率 (%)
1	フジ	日	18:30	30	サザエさん	22
2	フジ	日	18:00	30	ちびまる子ちゃん	19
3	テレ朝	金	19:00	30	ドラえもん	18
4	フジ	日	19:00	114	逃走中 2011 ~卑弥呼伝説~	17
4	テレ朝	金	19:30	24	クレヨンしんちゃん	17
6	日テレ	土	19:00	56	天才!志村どうぶつ園	16
7	テレ東	木	19:00	30	ポケットモンスター ベストウイッシュ	13
8	日テレ	土	19:56	58	世界一受けたい授業	11
9	テレ東	月	19:00	30	たまごっち!	9
9	日テレ	日	19:00	114	ザ!鉄腕!DASH!!犬だらけワンワン SP	9
9	日テレ	水	19:00	56	密室謎解きバラエティー 脱出ゲーム DERO!	9
9	テレ朝	金	20:00	108	ミュージックステーションSP!	9
9	テレ東	水	19:00	26	毎日かあさん	9
14	テレ朝	木	19:00	114	いきなり!黄金伝説。	8
14	テレ東	水	19:26	29	イナズマイレブン	8
14	テレ朝	火	19:00	27	ステイッチ!〜ずっと最高のトモダチ〜	8
14	日テレ	土	18:00	30	名探偵コナン	8
14	日テレ	土	21:00	69	デカワンコ	8
19	TBS	土	19:00	114	飛び出せ!科学くん SP	7
20	フジ	日	09:30	30	ONE PIECE	6

□はバラエティー番組

4-1 男子

順位	局	曜日	開始時刻	放送分数	番組名	視聴率 (%)
1	テレ東	木	19:00	30	ポケットモンスター ベストウイッシュ	41
2	テレ朝	金	19:00	30	ドラえもん	40
3	テレ朝	金	19:30	24	クレヨンしんちゃん	35
4	テレ東	水	19:26	29	イナズマイレブン	31
5	フジ	日	18:30	30	サザエさん	30
6	フジ	日	18:00	30	ちびまる子ちゃん	25
7	テレ東	水	19:00	26	毎日かあさん	24
8	フジ	日	19:00	114	逃走中 2011 ~卑弥呼伝説~	22
9	テレ東	木	19:30	28	NARUTO 疾風伝	19
9	テレ東	日	07:30	60	ポケモンスマッシュ!	19
9	テレ朝	火	19:00	27	ステイッチ!〜ずっと最高のトモダチ〜	19
12	テレ東	月	19:00	30	たまごっち!	18
13	テレ東	日	08:30	30	メタルファイト ベイブレード 爆	16
14	テレ朝	火	19:27	27	デジモンクロスウォーズ	15
15	日テレ	土	19:00	56	天才!志村どうぶつ園	13
15	テレ東	月	19:30	30	FAIRY TAIL	13
17	フジ	日	09:00	30	ドラゴンボール改	12
17	テレ東	火	18:30	30	ピラメキーン	12
19	テレ東	水	07:05	25	おはスタ2部	11
19	日テレ	土	18:00	30	名探偵コナン	11

4-2 女子

順位	局	曜日	開始時刻	放送分数	番組名	視聴率 (%)
1	フジ	日	18:30	30	サザエさん	40
2	フジ	日	18:00	30	ちびまる子ちゃん	34
3	テレ朝	金	19:00	30	ドラえもん	32
4	テレ朝	金	19:30	24	クレヨンしんちゃん	30
5	日テレ	土	19:00	56	天才!志村どうぶつ園	28
6	テレ東	月	19:00	30	たまごっち!	26
7	テレ東	木	19:00	30	ポケットモンスター ベストウイッシュ	21
8	フジ	日	19:00	114	逃走中 2011 ~卑弥呼伝説~	20
9	テレ朝	日	08:30	30	ハートキャッチプリキュア!	18
9	日テレ	土	19:56	58	世界一受けたい授業	18
11	テレ東	土	09:00	30	極上!!めっちゃモテ委員長 セカンドコレクション	16
11	テレ朝	火	19:00	27	ステイッチ!〜ずっと最高のトモダチ〜	16
13	日テレ	水	19:00	56	密室謎解きバラエティー 脱出ゲーム DERO!	14
13	テレ東	土	09:30	30	ジュエルペット ていんくる☆	14
15	日テレ	土	18:00	30	名探偵コナン	13
15	テレ朝	金	20:00	108	ミュージックステーションSP!	13
17	日テレ	日	19:00	114	ザ!鉄腕!DASH!!犬だらけワンワン SP	12
17	日テレ	土	21:00	69	デカワンコ	12
17	テレ東	水	19:00	26	毎日かあさん	12
17	テレ東	月	19:30	30	FAIRY TAIL	12

□はバラエティー番組

エティー番組として制作され、放送されていると言ってもよさそうである。

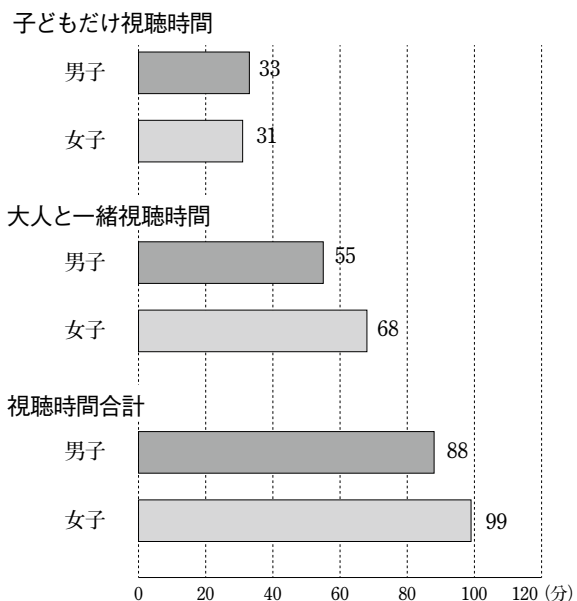
ついでながら、同じアニメ番組でも「ポケットモンスター」は「子どもだけ」視聴が多い番組であり、「サザエさん」は「大人と一緒に」視聴の多い番組であることに注意しておきたい。

### バラエティー番組視聴：男女比較

子どもによるバラエティー番組の見られ方にはさらに特徴がある。視聴率上位番組の男女比較をご覧ください(表4)。

女子の方がバラエティー番組をよく見ている。また「子どもだけ」視聴時間と「大人と一緒に」視聴時間について男女を比較すると、「大人と一緒に」視聴時間が女子>男子という結果になっており(図1)、女子の方が男子より家族視聴が長く、同時にテレビ視聴全体の時間も長いことが分かる。

図1 子どもだけ視聴時間と大人と一緒に視聴時間(男女比較)



## 3. 子どもと母親はそれぞれ 家族視聴をどうとらえるか

### 1) 子ども自身が答えた「よく見る番組」と 家族視聴のとらえ方

第9回調査(8歳時点)では、調査対象の子どもたちが小学2年生ないしは3年生に達したので、試行的に子ども本人アンケート(以下「子どもアンケート」という)を郵送調査で初めて実施した。

調査では、質問の1つとして、日ごろ「よく見る番組」を3つ挙げてもらい、それぞれについて、その番組を見る理由を、選択肢の中から複数回答で答えてもらった。理由の選択肢は以下の通りである。

- 1 おもしろいから
- 2 でてくるキャラクターが好きだから
- 3 見ないと、お友だちと話が合わないから
- 4 かぞくで見られてたのしいから
- 5 おとうさんやおかあさんがすすめるから
- 6 見ると気分がスカッとするから
- 7 ただなんとなく(ほかにすることがないから)
- 8 そのほか
- 9 わからない

上記の選択肢のうち、実質的な意味のある選択肢は2～6であるが、このうち「5 おとうさんやおかあさんがすすめるから」は、回答した子がほとんどいなかった。

子どもが「よく見る」と答えた上位20番組について、選択肢の「2」「3」「4」「6」の4つの理由を挙げた子どもの割合を調べた。その結果は表5のようになった。

「キャラクターが好きだから」というタイプの

表5 よく見る理由ごとのよく見る番組：子どもアンケート・8歳

キャラクターが好きだから

ジュエルペット ていんくる☆	79%
たまごっち!	77%
仮面ライダーオーズ	75%
ポケットモンスター ベストウィッシュ	74%
ONE PIECE	67%

家族で見られて楽しいから

天才!志村どうぶつ園	58%
世界の果てまでイッテQ!	43%
VS嵐	36%
密室謎解きバラエティー 脱出ゲーム DERO!	35%
ちびまる子ちゃん	34%

□はバラエティー番組。パーセンテージは、その番組を「よく見る」と答えた子どものうち、その理由を挙げた割合。

見ないと、お友だちと話が合わないから

イナズマイレブン	29%
ポケットモンスター ベストウィッシュ	24%
ピラメキーン	20%
ポケモンスマッシュ!	18%
メタルファイト ベイブレード 爆	17%

気分がスカッとするから

仮面ライダーオーズ	31%
ちびまる子ちゃん	23%
メタルファイト ベイブレード 爆	22%
名探偵コナン	18%
ポケモンスマッシュ!	18%

番組はアニメ番組が多いが、主人公がかっこいい、あるいはかわいいので見る、というタイプの番組であろう。

「見ないと、お友だちと話が合わないから」のタイプの番組は、学校などで話題になる番組であろう。これもアニメ番組が多い。また、「見ないと、お友だちと話が合わないから」という理由を選んでいるのは男の子が多い(延べ件数:男子=208, 女子=77;ただし「よく見る番組」の記入者:男子=412, 女子=383)。

「気分がスカッとするから」というタイプの番組は、番組のストーリー展開と関わりがあるのかもしれない。

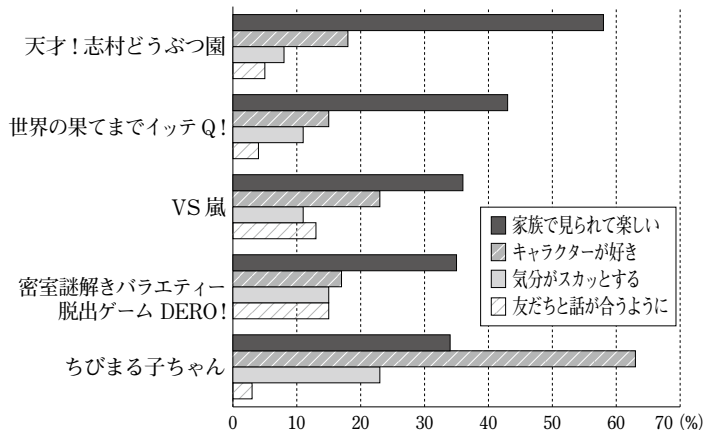
さて、「4 かぞくで見られてたのしいから」という理由を挙げた子どもの割合が多かった番組5本については、「2」「3」「6」の理由を挙げた子どもの割合を含めて、グラフにして示した(図2)。

「かぞくで見られてたのしいから」という理由が多かった番組は、家族向けバラエティー番組が4本並んだ。この4本は「キャラクターが好きだから」が一番多かった「ちびま

る子ちゃん」と比べてわかる通り、他の理由よりも「かぞくで見られてたのしいから」が抜き出て多い。このように家族視聴の楽しさが第一の理由で選ばれた番組が「よく見る番組」上位20本のうちの4本を占めたことは、子どもたちが「家族視聴」の楽しさを意識している可能性を示しているように思われる。

なお、「世界の果てまでイッテQ!」「VS嵐」は調査時期の1週間には放送がなかった。いずれも放送があれば、視聴率上位番組に入るかもしれない。

図2 「かぞくで見られてたのしいから」が多かった番組5本の理由内訳



## 2) 母親にとっての家族視聴

では、母親は、子どもと一緒にテレビを見ることをどのように考えているのだろうか。

第9回の母親アンケートでは、次の4項目についてどう思うか、質問している。回答は「あてはまる」「ややあてはまる」「どちらでもない」「ややあてはまらない」「あてはまらない」の5件

法である。

- 1 ○○さん(=調査に参加している子ども)に番組をすすめたり、一緒に見ようと誘うことがある
- 2 ○○さんから番組をすすめられたり、一緒に見ようと誘われることがある
- 3 ○○さんと一緒にテレビを見ることは

表6 テレビを親子一緒に見ること・8歳

母からのテレビへの誘導 (共有視聴時間との相関係数：.104\*\*)

	回答人数 (%)	視聴時間 (分)		
		大人と一緒に (1日平均)	子どもだけ (1日平均)	合計 (1日平均)
全体	834 (100)	60.8	32.5	94.3
あてはまる	111 (13)	62.2	27.8	90.5
ややあてはまる	328 (39)	68.2	32.1	101.1
どちらでもない	181 (22)	55.7	31.3	87.9
ややあてはまらない	106 (13)	54.7	35.6	92.9
あてはまらない	102 (12)	49.7	36.2	86.3

子どもからのテレビへの誘導 (共有視聴時間との相関係数：.124\*\*)

	回答人数 (%)	視聴時間 (分)		
		大人と一緒に (1日平均)	子どもだけ (1日平均)	合計 (1日平均)
全体	834 (100)	60.8	32.5	94.3
あてはまる	117 (14)	67.2	31.8	99.8
ややあてはまる	366 (44)	64.6	33.3	98.3
どちらでもない	144 (17)	61.3	34.3	97.4
ややあてはまらない	103 (12)	54.4	28.8	85.5
あてはまらない	98 (12)	44.3	29.8	75.0

一緒にテレビを見ると母は楽しい (共有視聴時間との相関係数：.204\*\*)

	回答人数 (%)	視聴時間 (分)		
		大人と一緒に (1日平均)	子どもだけ (1日平均)	合計 (1日平均)
全体	834 (100)	60.8	32.5	94.3
あてはまる	258 (31)	73.5	28.1	103.0
ややあてはまる	382 (46)	60.8	33.0	94.4
どちらでもない	146 (18)	43.5	37.0	81.8
ややあてはまらない	29 (4)	38.6	38.5	77.1
あてはまらない	12 (1)	36.3	28.9	65.2

一緒にテレビを見ると子どもは楽しそう (共有視聴時間との相関係数：.096\*\*)

	回答人数 (%)	視聴時間 (分)		
		大人と一緒に (1日平均)	子どもだけ (1日平均)	合計 (1日平均)
全体	834 (100)	60.8	32.5	94.3
あてはまる	270 (32)	65.4	28.6	95.2
ややあてはまる	365 (44)	61.6	32.2	94.6
どちらでもない	165 (20)	53.9	38.5	93.6
ややあてはまらない	18 (2)	46.3	33.6	79.9
あてはまらない	10 (1)	34.9	30.0	64.9

相関係数は Pearson。 \*\*p<.01。無回答は表から省く。また、視聴時間の合計には、「大人と一緒に」「子どもだけ」のいずれかが不明の時間も含まれる。



楽しい

#### 4 ○○さんはあなたと一緒にテレビを見ると楽しそうだ

各項目について、回答ごとの人数、グループごとの大人と一緒に・子どもだけ・合計の視聴時間（視聴日誌・子どもの視聴時間）を表6にまとめた。

一緒にテレビを見て「母親自身が楽しい」、 「子どもが楽しそうにしている」はいずれも、「あてはまる+ややあてはまる」が70%を超え、母親から見れば親子のいずれもが一緒にテレビを見ることを肯定的にとらえている結果になった。お互いに番組を見ようと誘い合う関係については、母からの誘導と子どもからの誘導とのいずれも「あてはまる+ややあてはまる」は50%を超えている。

母親は、テレビが親子の関係を取り持つツールとして一定の役割を果たしていると感じているようだ。

ところで、一緒にテレビを見ることに関する上記の4項目については、「大人と一緒に」視聴時間とゆるやかなプラスの相関が見られる。子どもと一緒にテレビを見て母親が楽しいと感じているケース、子どもから一緒に番組を見ようと母親を誘うケースでは、視聴時間合計でもプラスの相関が見られる<sup>4)</sup>。「子どもだけ」視聴時間については、マイナスの方向でも有意な相関は見られなかった。

### 4. 母親から見た「子どもにプラスになる番組とプラスの理由」

子どもたちが8歳になって、家族視聴を中心に、家族向けバラエティー番組の視聴傾向が顕在化してきた。また、子どもは家族でテレ

ビを見ることを楽しいと感じているらしく、一方、母親も子どもと一緒にテレビを見ると楽しいと考えていることが分かった。

では、母親は子どもとどんなテレビ番組と一緒に見たらいいと考えているのだろうか。

母親アンケートでは、次のような質問をしている（回答は自由記述）。

◇ この1年くらいの中に、○○さんが見ていたテレビ番組で、あなたから見て○○さんにプラスになった（よかった）と思うものがありましたら、番組のタイトルとその理由をなるべく具体的に教えてください。

この質問に対して、母親アンケートの有効回答数850の53%にあたる453人の母親から回答が得られた。プラスになった番組の延べ回答数は520票に達した。そのほとんどに理由がしっかりと書かれていた（番組の記入があって理由の記入がないものが8票、理由を「わからない」とするものが1票あった）。

その結果、「子どもにプラスになった番組」で10人以上の母親が挙げた番組が12タイトルあった。表7の通りである。これは視聴日誌から算出した視聴率上位番組とは顔ぶれが全く異なる。

表7には、視聴日誌の視聴率上位番組に含まれる「世界一受けたい授業」「天才!志村どうぶつ園」などと並んで、視聴率の高くない「ダーウィンが来た!～生きもの新伝説～」（視聴日誌による視聴率:3%）、「NHK大河ドラマ」（第9回調査では「江」・視聴日誌による視聴率:4%）が含まれている。

では、母親が記述した「番組が子どもにプラスになった理由」とはどんなものだったのだ

表7 子どもにプラスになった番組（自由記述）：  
母親アンケート（8歳）

番組名	件数
ダーウィンが来た！～生きもの新伝説～	46
飛び出せ！科学くん	44
世界一受けたい授業	39
NHK 大河ドラマ	23
天才！志村どうぶつ園	23
世界の果てまでイッテQ！	17
週刊こどもニュース	12
ザ！鉄腕！DASH!!	11
すイエんサー	10
イナズマイレブン	10
空から日本を見てみよう	10
(参考) サッカー中継など	13

ろうか。

その番組の視聴が子どもにとってプラスになった理由の大半は、何らかの意味で、子どもの成長に役立った、教育的効果があったというものであった。

自由記述なので客観的に数値化することは難しいが、一番目立った理由は、科学や漢字、あるいは歴史など、学校の授業には直接即さない事柄に関する知的な興味や関心を刺激してくれた、というものだった。知的な刺激にとどまらず、知識を増やしてくれた、という理由も併せて多くあった。

次いで、「広く子ども心の成長を促す」と言えそうな理由が目立った。「番組に感動

して涙を流していた」という端的な理由を含め、命の大切さや弱者への思いやり・いたわり、善悪の判断や努力することの大切さを教えてくれたなど、情操教育や倫理観の育成につながったというものである。

また、一緒に見ることで何かを共有できた、番組が会話のきっかけになったなど、親子・家族の結びつきに役立ったという理由も少なくなかった。

そのほか、普段の生活では知ることのできないこと（たとえば海外の暮らしや文化）の見聞を広める、社会の出来事に関する情報を伝える、得意な分野（特にスポーツなど）を伸ばし自信を与える、考える力そのものを育成する、将来の夢を育てる、しつけ（起床・手洗い）に役立つなど、理由は多岐にわたる。

理由は自由記述による回答であるため、あえて分類するならば、理由一覧とその回答数は図3のようになる。

図3 子どもにプラスになった理由

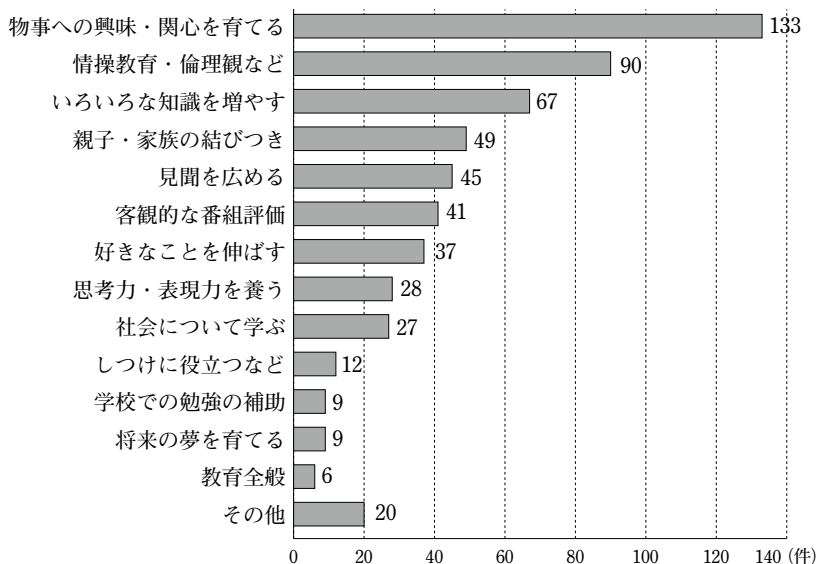


表8 子どもにプラスになった番組とその理由（自由記述）：母親アンケート（8歳）

(件)	ダーウィンが来た！ 生きもの新伝説！	飛び出せ！科学くん	世界一受けたい授業	NHK大河ドラマ	天才！志村どうぶつ園	世界の果てまでイッテQ	週刊こどもニュース	ザ！鉄腕！ダッシュユ！！	スイエンサー	イナズマイレブン	空から日本を見てみよう	サッカー中継など
物事への興味・関心を育てる	16	24	16	14	6	2		3	7		6	
情操教育・倫理観など	4	1		1	10	3	1			4		4
いろいろな知識を増やす	16	7	12	3	2	1		1			2	
親子・家族の結びつき	1	3	6	5		1	3	2	2			1
見聞を広める	1	4	4			13		4			2	
客観的な番組評価	5	7	2	1	3		4	1				
好きなことを伸ばす	1	3		1					1	5		7
思考力・表現力を養う	3	2	2		2				1			
社会について学ぶ			1				8					
しつけに役立つなど												
学校での勉強の補助			1									
将来の夢を育てる												2
教育全般			2									
その他	2		1		1					2	1	

情報性や物事への興味と関心の刺激、感動・心の育成などは、子どもの教育のためだけでなく、一般的にテレビに求められる基本的な性格と言えよう。

ちなみに、子どもにプラスになった番組で10人以上が挙げた番組について、どんな理由が書かれていたかを図3の分類にしたがって表8にまとめた。それぞれの番組が親の目にとどのように映っているかが伝わってくる。

## 5. まとめ

子どもたちは小学校に入学してから、相変わらずアニメ番組をよく見ている。しかしアニメ以外にも、家族向けバラエティー番組が見られるようになってきた。バラエティー番組は家族と一緒によく見られるという特徴がある。

子どもアンケートでは「家族と一緒にテレビ

を見られて楽しい」が、特にバラエティー番組を中心に視聴の理由になっていた。親と一緒に同じ番組を見ることを、子どもが「楽しい」と評価していると言っているかもしれない。

第9回調査の結果を見る限り、テレビは親子関係に一定の役割を果たしている、と思われる。多くの母親にとって、子どもと一緒にテレビを見ることは楽しい、という結果であった。統計的には、テレビ視聴時間が長い子どもの方が、母親と一緒にテレビを見ようと誘うことが多いという結果になった。

母親が「子どもにプラスになった番組」と答えた番組には、家族向けバラエティー番組が一部含まれていた。そして「番組が子どもにプラスになった理由」の回答からは、母親のテレビに対する期待が読みとれた。テレビを見ることによって、子どもの知的好奇心や子どもの心情が豊かに育っていくことを願っているの

ある。こうした母親の期待に応えることが、現在、家族視聴を想定したバラエティー番組に求められる一つの条件ということになる。

“子どもに良い放送”プロジェクトのパネル調査は、子どもたちが11歳（小学校5年・6年）になるまで続く。今、子どもたちが自分自身で答えられる時期に達し、本人が答える調査に期待が集まる。プロジェクト本来の目的である子どもの発達への影響についても、これから分析が本格化することになる。

（なかいしゅんろう/ほりかわしんいち）

#### 注：

- 1) 共同研究者は、小林登（国立小児病院名誉院長、東京大学名誉教授）、鮑戸弘（放送倫理・番組向上機構理事長、東京大学名誉教授）、小西行郎（同志社大学教授）、子安増生（京都大学教授）、榊原洋一（お茶の水女子大学教授）、坂元章（お茶の水女子大学教授）、菅原ますみ（お茶の水女子大学教授）、箕浦康子（お茶の水女子大学名誉教授）、一色伸夫（甲南女子大学教授）の9名。
- 2) 調査地として川崎市を選んだ理由は、商工業地域、農地、住宅地などが混在し、各産業従事者、サラリーマン、自営業従事者など、在住者の就業状況のバランスがとれていることである。

- 3) サンプルの脱落、すなわち調査協力者の中途からの不参加は、パネル調査にとって宿命とも言える。本調査においては、脱落の最も頻繁なケースは、厳密な数は把握していないが、転居が契機になっていると思われる。
- 4) 視聴時間合計との相関係数（Pearson）はそれぞれ、一緒に見ると母親は楽しい：.135\*\*、子どもからのテレビへの誘導：.119\*\*（いずれも\*\*： $p < .01$ ）